

予算要求課	農政部 畜産課	内線 2240
-------	---------	---------

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	1	畜産総務費
事業名	52105 畜産関係事務費							

新規	継続	拡大	縮小
		○	

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		960	2,153	1,193	962	要求に対し積算内容を精査 共進会負担金は家畜改良推進事業費で計上 前年予算に対し負担金の減	962	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	960	2,153	1,193	962			
						962		

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
畜産振興の向上			
事業実施の課題			
飼料の高騰、宮崎における口蹄疫の発生、畜産物の消費の減退等厳しい経営環境の中で、意欲ある畜産農家の育成。飛驒牛ブランドを全国に強力なアピールをするため「全国和牛能力共進会」での上位入賞を目指した牛づくりと生産者組織活動の強化。			
事業概要			
飛驒畜産振興会の活動支援、畜産物のPR等			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
成果			
高品質な飛驒牛の増産とブランド強化による生産者の収益向上などの畜産振興及び全国和牛能力共進会に向けての高品質牛の生産			
要求額増減理由			
飛驒畜産振興会、飛驒牛PR強化のための経費の増			

①総合計画		
②実施計画・中期財政計画		
③事業評価		
事業名	今後の方向性	
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
・畜産業を実現するため、飛驒牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化		

予算要求課	農政部 畜産課	内線 2238
-------	---------	---------

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52200 畜産活性化対策推進事業							

新規	継続	拡大	縮小
○			

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		0	1,499	1,499	0	制度内容について検討の必要があるため	0	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	0	1,499	1,499	0			

以下は予算要求時の内容

事業の目的				
衛生面・経営面の管理アドバイスを行い、安定した農家経営の確立を支援するとともに、自給飼料による安全・安心でおいしい畜産物を生産し、ブランド力を強化することにより農家経営の安定を図る				
事業実施の課題				
飼料米等の生産拡大と、飼料米等を給与した畜産物の付加価値の向上。 口蹄疫を含めた家畜伝染病に対する飼育管理面や経営管理面のアドバイスの必要性の増大。 農家経営安定のための飼料自給率の向上。				
事業概要				
畜産管理アドバイス事業				
飼料自給率向上推進事業				
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
畜産管理アドバイス実施農家(戸)		0	0	3~5
飼料米等作付面積(ha)		6.84	14.39	20.00
成果				
畜産業の拡大・向上				
飼料米で育てることによる畜産物の高付加価値化				
要求額増減理由				
新規事業のため				

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1)安定した畜産経営環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4)畜産業		
ソフト		
飼料基盤等強化対策事業		
③事業評価		
事業名		今後の方向性
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強化に取り組みます。飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組みます。肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線 2239
-------	---------	---------

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52201 畜産担い手育成総合整備事業							

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		85,270	79,804	△ 5,466	74,295	要求どおり 前年予算に対し事業量が減少したことによる減	74,295	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金	49,592	49,090	△ 502	46,465		46,465	
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	35,678	30,714	△ 4,964	27,830	27,830		

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
草地や牧場を造成することにより、自給飼料に立脚した畜産経営の育成を図る。			
事業実施の課題			
景気の低迷等による畜産経営の悪化にともなう事業参加者の減少 当初参加希望者17戸 ⇒ 5戸			
事業概要			
市営飛騨御岳牧場(千町)の拡大整備			
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込
基本施設(草地、牧場)		3	1
利用施設(堆肥舎、隔障物、追い込み柵)		2	1
機械導入		1	1
成果			
新規就農者、後継者の確保と自給飼料の増産による経費の節減を図り、畜産物の安定供給と地域畜産の振興。			
要求額増減理由			
事業量の減			

①総合計画		
(3)「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1)安定した畜産経営環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4)畜産業		
ハード		
畜産担い手育成総合整備事業		
③事業評価		
事業名	畜産担い手育成総合整備事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	受益者数に比べ、コスト面が多大となっており、コストに見合うだけの肉用牛の増頭を進める必要がある。
コスト・成果ポジション	コスト 高	成果 高
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要	
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
・飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組めます。		
・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線2239
-------	---------	--------

金額の単位は、千円

款	5	農林推進業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52215		後継者等肉用牛貸付事業					

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		37,177	38,956	1,779	38,956	要求どおり 前年予算に対し国庫返還金の増	38,956	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他(基金)	37,177	38,956	1,779	38,956		38,956	
	一般財源	0	0	0	0		0	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
繁殖雌牛の増頭により、子牛の増産と飛騨牛の安定供給を図る。			
事業実施の課題			
国の事業廃止により、国庫補助分を返還中(H23年度まで)であり、返還後の事業内容の見直しが必要である。			
事業概要			
年間75頭の肉用牛繁殖雌牛を5年間無償貸付			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
高齢者貸付頭数(頭)	65	65	65
後継者貸付頭数(頭)	10	10	10
成果			
繁殖雌牛の増頭と新規就農者の初期投資の軽減			
要求額増減理由			
国庫返還金の増額			

①総合計画		
(3)「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1)安定した畜産経営環境を整備する		
③あらたな担い手の確保		
②実施計画・中期財政計画		
4「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4)畜産業		
ソフト		
後継者等肉用牛貸付事業		
③事業評価		
事業名	後継者等肉用牛貸付事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	繁殖雌牛の増頭は、飛騨牛の安定供給や販路拡大のため必要であり、今後も継続して実施していく必要がある。繁殖雌牛4,000頭の実現に向け、繁殖雌牛の増頭や規模拡大につなげていく手法についての検討が必要である。
コスト・成果ポジション	コスト 中	成果 中
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要	
④市長の約束		
3産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します 肉用牛飼育頭数4,000頭を目指します。		

予算要求課	農政部	畜産課	内線
-------	-----	-----	----

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52220 家畜防疫衛生事業費							

新規	継続	拡大	縮小

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		2,408	4,504	2,096	2,408	要求に対し積算内容を精査 口蹄疫対策にかかる初期対応分の必要経費を計上	2,408	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他	1,537	1,537	0	1,537			
	一般財源	871	2,967	2,096	871	871		

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
家畜伝染病の侵入防止、発生時の伝染病拡散防止、各種疾病の発生予防により安全な畜産物の生産と畜産農家の経営安定を図る。			
事業実施の課題			
的確な情報収集と、畜産農家及び関係諸団体との綿密な連携 万が一、口蹄疫が発生した場合の初動体制の充実強化			
事業概要			
伝染病自衛防疫用消毒薬の購入。悪性伝染病発生時の消毒資材の備蓄。 法定家畜伝染病予防補助(鶏ニューカッスル病)。県外導入豚オーエスキー病検査の実施。 家畜伝染病の浸潤状況調査。			
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込
法定家畜伝染病予防補助(羽)		150,000	150,000
県外導入豚オーエスキー病検査(頭)		100	130
家畜伝染病浸潤状況調査(頭)		3,588	2,800
成果			
家畜伝染病の発生防止や発生時の拡散防止により、安全な畜産物の生産や畜産農家の経営が安定する。 また、市民生活の安全性が確保される。			
要求額増減理由			
伝染病発生時に備えた経費の増			

①総合計画		
(3)「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1)安定した畜産経営環境を整備する		
②安全で安心な畜産物の供給		
②実施計画・中期財政計画		
4「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4)畜産業		
ソフト		
家畜防疫衛生事業		
③事業評価		
事業名	家畜防疫衛生事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	高山市における口蹄疫対策マニュアルを早期に策定するとともに、必要な備品については計画的に購入する必要がある。
コスト・成果ポジション	コスト 中	成果 中
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要 また、家畜診療業務については、民間委託を視野に入れるとともに、一層の防疫体制を図る必要がある。	
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強化に取り組めます。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線2239
-------	---------	--------

金額の単位は、千円

款	05	農林水産事業	項	02	畜産業費	目	02	畜産振興費
事業名	52225 家畜人工授精事業費							

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		24,000	24,983	983	23,988	要求に対し積算内容を精査 前年予算に対し同額	23,988	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他	11,215	8,778	△ 2,437	9,815		9,815	
一般財源		12,785	16,205	3,420	14,173		14,173	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
家畜の人工授精や受精卵移植により、家畜の改良・増殖をはかり、飛驒牛のブランド力強化を推進する。			
事業実施の課題			
事業実施エリアが広範囲なので、より効率的な事業実施の体制整備と、受胎率のさらなる向上。乳用牛への和牛受精卵移植のさらなる活用による、優良和牛子牛生産頭数の増頭。			
事業概要			
家畜人工授精業務、受精卵移植業務、受精卵採卵業務			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
家畜人工授精実績(頭)	3,429	3,400	3,400
受精卵移植実績(頭)	229	200	200
受精卵採卵実績(頭)	50	50	50
成果			
より高品質な「飛驒牛」の改良・増頭により、産地間競争に負けないブランド力の強化を図り、農家経営が安定する。			
要求額増減理由			
委託先での人工授精業務にかかる伝染病まん延防止のための防疫用資材の増 家畜人工授精車の車検による経費の増			

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1) 安定した畜産経営環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト		
家畜人工授精事業		
③事業評価		
事業名	家畜人工授精事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	飛驒牛のブランド力の更なる強化を図るために本事業は重要である。しかし、人工授精件数は減っているものの、委託料は減少していないため、契約内容を見直すなど更なるコスト縮減が必要である。
コスト・成果ポジション	コスト 中	成果 中
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要	
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
・安定した畜産業を実現するため飛驒牛の全国ブランド化を具体的に進めます。		
・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線
-------	---------	----

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52227 繁殖牛舎建設支援事業							

新規	継続	拡大	縮小
○			

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		0	15,000	15,000	15,000	要求どおり 肉用飼育頭数4,000頭達成のため、畜舎建設補助事業を新規事業化する	15,000	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	0	15,000	15,000	15,000		15,000	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
繁殖農家220戸(3,500頭)への増頭推進に加え、肥育農家自らの素畜生産体制を推進し、肉用牛(繁殖牛)4,000頭を達成するため、繁殖牛舎の建設に対し支援する。			
事業実施の課題			
繁殖経営においては、新規就農や規模拡大をするためには初期投資が大きくなるので、牛舎の建設や牛の育成費等の経費の抑制が課題となる			
事業概要			
繁殖牛舎の建設に対する助成(補助率1/2)			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
繁殖牛舎建設数(棟)			3
繁殖牛増頭数(頭)			60
成果			
肉用牛飼育頭数4,000頭の達成、飛騨牛の県内素畜率のアップによる飛騨牛ブランド力のアップや新規就農者の確保。			
要求額増減理由			
繁殖経営の新規就農や規模拡大には初期投資が大きく牛舎建設を支援することにより、肉用牛飼育頭数4千頭をめざす。			

①総合計画		
②実施計画・中期財政計画		
③事業評価		
事業名	今後の方向性	
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部畜産課	2238
-------	--------	------

金額の単位は、千円

款	05	農林水産事業費	項	02	畜産事業費	目	02	畜産振興費
事業名	52230		家畜改良推進事業費					

新規	継続	拡大	縮小
		○	

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		670	1,185	515	2,070	要求、前年予算に対し増 畜産関係事務費に要求のあった、全日本ホルスタイン共進会、全国和牛能力共進会の負担金を家畜改良推進事業費で計上	2,070	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他	424	424	0	424		424	
	一般財源	246	761	515	1,646	1,646		

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種共進会を開催することにより、畜産物の高品質化によるブランド力の強化と農家の意欲向上により増産を図る。			
事業実施の課題			
飛騨牛以外の畜産物の全国ブランド化			
事業概要			
品評会の開催 第13回全日本ホルスタイン共進会への出品助成			
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込
共進会出品頭数(頭)		172	160
			H23計画
			160
成果			
・優良雌牛の産子の地域内保留			
・畜産農家の意識の向上			
要求額増減理由			
全日本ホルスタイン共進会開催に伴う出品経費等の増			

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1) 安定した畜産経営環境を整備する		
②安全で安心な畜産物の供給		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト		
家畜改良推進事業		
③事業評価		
事業名		今後の方向性
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3 産業の柱として農業・林業・畜産業を確立します。		
・畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化		

予算要求課	農政部 畜産課	内線 2237
-------	---------	---------

金額の単位は、千円

款	05 農林水産業費	項	02 畜産業費	目	02 畜産振興費
事業名	52235 牧場放牧事業費				

新規	継続	拡大	縮小
		○	

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		18,870	28,173	9,303	19,400	要求に対し積算内容を精査 前年予算に対し、事業量の増	19,400	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他	10,920	18,028	7,108	10,800		10,800	
	一般財源	7,950	10,145	2,195	8,600	8,600		

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
放牧利用を推進することにより、飼料自給率の向上と生産コストの低減を図る。 また、放牧による繁殖牛の健康の向上と優良子牛の安定生産及び畜産労力の軽減による複合経営の推進、並びに放牧場の適正な維持管理を目的とする。			
事業実施の課題			
放牧場を適正に維持管理するための草地改良と、作業人員の確保並びに防疫対策の強化			
事業概要			
市営5牧場(岩井・久手・小鳥山・一色・御岳)の維持管理及び利用推進 繁殖牛放牧事業助成			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
市営牧場放牧利用延べ頭数(頭)	72,893	72,800	72,000
繁殖牛放牧事業補助(市営牧場以外延べ頭数)(頭)	3,069	1,500	4,000
成果			
畜産経営上の経費削減、優良子牛の安定生産及び畜産労力の軽減による畜産経営基盤の安定化			
要求額増減理由			
牧場維持管理のため土壌分析にかかる経費の増			
家畜伝染病対策等の防疫措置向上のための経費の増			

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1) 安定した畜産経営環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト・ハード		
牧場放牧事業・畜産施設維持修繕・改修事業		
③事業評価		
事業名	牧場放牧事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	適正な受益者負担の観点から放牧料の改定について検討する必要がある。なお、コスト削減を図るため、引き続き指定管理者制度が導入できるよう検討していく必要がある。
コスト・成果ポジション	コスト 中	成果 中
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要	
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します 飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組みます。 肉用牛飼養頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部	畜産課	内線	2239
-------	-----	-----	----	------

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52245 優良飛驒牛固定推進事業							

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		41,190	41,180	△ 10	41,170	要求どおり 前年予算と同額	41,170	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他	17,550	17,550	0	17,550		17,550	
	一般財源	23,640	23,630	△ 10	23,620		23,620	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留又は導入する ・優良な乳用牛の保留または導入による酪農経営の強化 			
事業実施の課題			
和牛繁殖雌牛の遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の調査や、こまめな農家巡回による優良雌子牛の選抜。			
事業概要			
優良な繁殖和牛子牛及び乳用育成牛の保留または導入に対する助成			
計画・実績・見込	H21実績	H22見込	H23計画
優良雌牛保留対策数(頭)	68	150	150
優良飛驒牛増頭推進数(頭)	50	50	50
優良乳用牛保留・導入推進数(頭)	21	30	30
成果			
能力の高い牛から生産された子牛を導入又は保留することにより、良質な子牛生産の確立アップ並びに飛驒牛の安定供給やブランド力の強化が実現。			
要求額増減理由			

①総合計画		
(3)「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1)安定した畜産環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト		
優良雌牛保留対策事業、優良乳用牛確保対策事業		
③事業評価		
事業名	優良飛驒牛固定推進事業	今後の方向性
評価区分	Ⅲ	繁殖雌牛の増頭は、飛驒牛の安定供給や販路拡大のために必要であり、今後も継続して実施していく必要がある。
コスト・成果ポジション	コスト 中	成果 中
実施方針	「Ⅱ」以上の水準に向けた改善が必要	
④市長の約束		
3 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
安定した畜産業を実現するため、飛驒牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。肉用牛飼育頭数4千頭を目指します。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線2239
-------	---------	--------

金額の単位は、千円

款	5	農林推進業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52247 飛驒牛生産経営安定推進事業補助金							

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		900	900	0	900	要求どおり 前年予算と同額	900	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	900	900	0	900		900	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
子牛生産における事故は繁殖経営に大きな打撃を与えるため、組合員相互で互助制度を行うための基金造成に助成する。			
事業実施の課題			
子牛事故低減のための飼育管理技術の指導			
事業概要			
高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のための基金造成に対する助成 見舞金のための基金積立 1頭当たり1,000円(高山市25%、JAひだ25%、生産者50%)			
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込
加入頭数(頭)		3,444	3,600
			H23計画
			3,600
成果			
組合員相互の連携強化と意欲的な「飛驒牛」の改良生産強化			
要求額増減理由			

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1) 安定した畜産経営環境を整備する		
①競争力のある生産基盤の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト		
飛驒牛生産経営安定推薦事業		
③事業評価		
事業名		今後の方向性
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
・肉用牛飼育頭数4,000頭を目指します。		

予算要求課	農政部 畜産課	内線2239
-------	---------	--------

金額の単位は、千円

款	5	農林水産業費	項	2	畜産業費	目	2	畜産振興費
事業名	52250 新飛騨食肉センター運営整備事業費							

新規	継続	拡大	縮小
	○		

事業費(人件費除く)		H22当初予算額	H23要求額	増減	財務部査定額	査定の考え方	市長査定額	査定の考え方
歳出		69,285	69,310	25	69,285	要求どおり 前年予算と同額	69,285	財務部査定どおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	起債			0				
	その他			0				
	一般財源	69,285	69,310	25	69,285		69,285	

以下は予算要求時の内容

事業の目的			
畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給			
事業実施の課題			
安全・安心な食肉の安定供給と「飛騨牛」の海外販路の確立			
事業概要			
・頭部焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に対する助成 ・豚と畜ライン廃止による近隣と場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成			
	計画・実績・見込	H21実績	H22見込
肥育牛出荷頭数(頭)		3,337	3,600
肉豚出荷頭数(頭)		4,690	4,820
成果			
衛生基準が高まった施設による安全・安心な食肉の供給によって「飛騨牛」ブランド力の向上並びにアジアを主体とした海外販路の確立			
要求額増減理由			

①総合計画		
(3) 「にぎわい」のあるまちをめざして		
畜産業		
(1) 安定した畜産経営環境を整備する		
②安全で安心な畜産物の供給 ④畜産関連施設の整備		
②実施計画・中期財政計画		
4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
(4) 畜産業		
ソフト・ハード		
家畜防疫衛生事業、飛騨食肉センター助成事業、畜産関連施設運営事業費		
③事業評価		
事業名		今後の方向性
評価区分		
コスト・成果ポジション	コスト	成果
実施方針		
④市長の約束		
3産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します		
・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の確立を、具体的に進めます。		